

患話休題

かんわきゅうだい

55



院長
真崎 雅和



かぜの小話

患者さんに「かぜですか？」と聞かれると、ちよつと戸惑ってしまいます。医学的に「かぜ」という病気は定義されていないからです。国際疾病分類には「J10急性鼻咽頭炎(かぜ(感冒))」となっていますが、原版(英語)には「かぜ(感冒)」となつていますが、(例えば「ORF」など)に当たる単語は見当たりません。日本独特の表現と思われます。

東洋医学では病気の原因を外因、内因(と、どちらでもない)に分けられますが、外因は文字通り外部、主に気候変化が原因で病気がもたらされるものをいい、具体的には風(春)、湿(初夏)、暑(夏)、燥(秋)、寒(冬)、火(灼熱環境)の6つ(六氣)を指します。体調を崩した体に悪く作用するとき、それぞれが邪と化したと考えます(風なら風邪)。

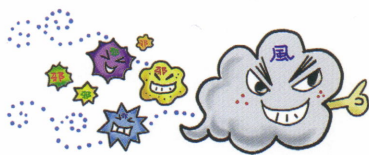
風邪によつてもたらされる病気は上気道炎(頭痛、鼻閉、咽頭痛、肌粟立ち感)であることから、原因が転じて病名になったものと考えられます。また「風」は文字通りさまざまなものを運んでくるので、他の邪も運ばれているいろいろな病気をもたらしことになることから、「風邪は万病のもと」といわれるわけです。なお、インフルエンザのように悪寒や全身症状を伴う「かぜ」は寒邪によるもので、こちらの方が重症感があります。

我々耳鼻咽喉科医は、鼻、咽頭、喉頭を直接肉眼で観察するので、炎症が見られると鼻炎、副鼻腔炎、

咽頭炎、扁桃炎、喉頭炎と診断し、「かぜ」とか「上気道炎」というような診断名をつけることはありませんが、患者さんに小面倒くさいことを言つても始まらないので、「かぜですか」と聞かれると「まあそんなところですかね」と答えることはあります。

咳は下気道の症状ですので、疾患分類からすると咳がでたら「かぜ」ではないことになりませんが、この場合も「かぜ」と呼ばれることが多いようです。

「急性鼻咽頭炎」かぜの多くの原因はライノウィルスと呼ばれるウィルスによるもので、数日で治るような印象を持たれる方も多いと思われていますが、鼻水や鼻つまり、咳は10日以上続くことがあります。高熱がでた場合は、乳幼児であればRSウィルスやアデノウィルス、成人であればインフルエンザが原因と考えられますがインフルエンザを除いて特異的な治療法はありません。乳幼児や高齢者、慢性的な病気を保持方はときに重症化したり、細菌感染にかかりやすくなったりします。また、初めから細菌感染の場合もありますので「かぜ」の診断は案外難しいものです。安静にして症状が軽くなつていく場合がほとんどですが、経過中に悪化してくる場合は医療機関の受診をお勧めします。



診察時間が近づいたことをお知らせする

約30分前
メールサービスを

ご利用ください。
ご希望の方はメルアドを受付へ!!



急患随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診

真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321
秋田市土崎港中央6-8-3